



産後ケア宿泊型サービス「イルーム」
(武蔵野市事業)

出産後の「こころとからだの休息」と「リフレッシュ」を目指しています

【助成適用金額】
母子1組 1泊2日 70,000円～ 母子1組 1泊2日 10,000円～

・武蔵野市民の方で、産後ケア事業の対象になる方には助成があります。
事前に武蔵野市に登録申請を行い、「利用登録書」の交付を受けご予約ください。
詳しくは武蔵野市健康課 (0422-51-0700) にお問合せください。
詳しくは武蔵野赤十字病院・地域周産期母子医療センターのwebサイトをご覧ください。

<https://www.musashino.jrc.or.jp> 〒180-8610 武蔵野市境南町 1-26-1 ④0422-32-3111

日本赤十字社 武蔵野赤十字病院

地域周産期母子医療センター

- ・産科病棟
- ・NICU(新生児集中治療室)

当院では、急変等に対応できるように「産科医、新生児科医、救命医、麻酔医、助産師」が24時間常駐しております。

当院では、陣痛の痛みを和らげる方法の一つとして**無痛分娩**を行っております。

詳細は武蔵野赤十字病院・地域周産期母子医療センターのWebサイトをご覧ください。

分娩: 60万円～ 無痛分娩: 72万円～

0422-32-3111

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

武蔵野赤十字病院

Eye むさしの

頼れる病院をめざします



基本理念

- 病む人への愛
- 同僚と職場への愛
- 地域住民と地域への愛
- 地球、自然、命への愛

基本方針

- (1) 患者・家族から信頼される安全な医療を提供します
- (2) 地域中核病院としての機能向上を図ります
- (3) 地域の医療機関・行政と連携して市民が安心して住める地域づくりを進めます
- (4) 質の高い医療を提供するため、安定した病院経営を継続します
- (5) 働きがいがあり、成長を実感できる職場をつくります



一申し込み方法
電話予約または直接健診センターへの来院予約
月曜日～土曜日 午前9時～午後4時
(但し年末年始 12/29～1/3及び5/1は除く)
電話番号 0422-30-5638 (直通)
または 0422-32-3111 (代)

新年のご挨拶



新年を迎え、皆さんにご挨拶申し上げます。

武蔵野赤十字病院は、1949年に設立され75年以上が経過しましたので、

院長
黒崎 雅之

新病棟の建築が必要となりました。幸いなことにスペースがありましたので、敷地内に新病棟を立てることができました。建築は順調に進んでおり、新病棟は9月中旬には完成します。外来は現在の建物をそのまま使用しますが、入院病棟、救急センター、検査部門、内視鏡センター、集中治療室、手術センターなどが新病棟に移転します。新病棟では、病室は全室が個室となります。これを機にCT、MRI、血管造影室、手術室、内視鏡検査室、化学療法室を増やし、またPET検査やハイブリッド手術室といった最先端設備も新規に導入します。また、1フロアに産科外来、分娩室、産科病室、母体胎児集中治療室、新生児集中治療室などを集約した周産期センターを作ります。これまで以上に高度で患者さんが安心できる医療を提供できるようになりますので、近代的な建物とともに、診療の内容も進化し続ける武蔵野赤十字病院に、是非ご期待ください。

当地域において、武蔵野赤十字病院は高度急性期病院の役割を担わせていただいている。高度な最先端の医療を提供するために、各診療科では最新の技術を取り入れて努力を積み重ねています。地域がん診療連携拠点病院に指定されていますので、からだに優しい低侵襲手術、がんゲノム医療、薬物療法や、精度の高い放射線治療などとともに、緩和ケアや就労支援など包括的なケアも推進しています。無痛分娩や産後ケア、小児・新生児医療にも力を入れています。救命救急センターでは、三次救急を含む高度救命救急医療をおこない、脳卒中や循環器疾患に対しても24時間体制で対応しています。地域の皆様の健康を守るために、近隣医療機関の先生方との連携も深め、適時適切な医療を効率よく受けられ、早く社会復帰が出来る「地域完結型の医療」を地域の先生方とともに目指しています。

今後とも地域の皆様に信頼される病院を目指し、果たすべき役割をしっかりと果たし、質の高い医療を提供するため、職員一同努力いたします。

新年のご挨拶



看護部長
奥田 悅子

大寒の候、皆様におかれましてはご健勝のこととお喜び申し上げます。

年末年始においては、インフルエンザなどの流行もあり多くの方が当院を受診されました。また入院においては、年末年始以降多くの後期高齢者が緊急入院をされています。

世の中では、以前より団塊世代全員が75歳以上の後期高齢者となる「2025年問題」が叫ばれてきましたが、ついにその2025年となりました。当院のみならず多くの医療機関が、2025年を迎える前から問題を実感していたと思います。

日本の医療は日々進化しております。そのため以前であれば80・90歳代の方が受けるにはリスクが高い手術や治療が、受けられるようになったのも事実です。しかし、医療の不確実性は常にあります。高齢者は、環境の変化や体の不調、薬剤の影響など様々な要因で「せん妄」状態になるリスクや転倒転落のリスクは高くなります。

病院では、そのために「せん妄リスクアセスメント」などを入院時より評価として行っており、そのせん妄や転倒転落のリスクの高さに応じて対策を実施していますが、完全に防ぐことはできません。当院のような高度急性期病院の一般病棟の看護基準は、患者7人に対して看護師1人(夜間は患者12人に対して看護師1人)の配置基準であり、夜間でも点滴や手術・検査後の観察や対応、患者の日常生活の援助など看護業務は様々あります。その中で対策を実施しても、例えば患者自身がトイレに行こうとして転倒するなどはほんの数秒で起こってしまいます。

2025年12月、当院は新棟に変わり全室個室の病棟となります。医療の高度化・複雑化や患者の高齢化により前述のリスクが高まる中、人間(医療者)だけではそのリスクに対応することは困難です。また今後、さらに18歳人口減少により働き手が少なくなることを見据え、DX(デジタルトランスフォーメーション)を推進し適切な医療・療養環境を整えて参ります。